

# 令和2年度 事業報告

学校法人 悠久崇徳学園

長岡崇徳大学

長岡看護福祉専門学校

上越看護専門学校

## 学校法人悠久崇徳学園

### 1 法人の概要

#### (1) 法人の沿革

平成 4年4月	長岡福祉専門学院 開校
平成 7年4月	長岡福祉専門学院を長岡看護福祉専門学校と校名変更 看護学科新設
平成 9年2月	レクリエーション・インストラクター養成課程認定
平成11年2月	福祉レクリエーション・ワーカー養成課程認定
平成17年4月	長岡看護福祉専門学校の設置者を学校法人崇徳医療福祉学園に変更
平成20年4月	上越看護専門学校 開校
平成22年4月	法人名を学校法人 悠久崇徳学園と改称
平成26年6月	悠久崇徳学園から学校法人長岡総合学園分離認可 施行
平成30年8月	長岡崇徳大学 設置認可
平成31年4月	長岡崇徳大学 開学
令和 2年4月	長岡看護福祉専門学校介護福祉学科留学生受入（4名）
令和 3年3月	長岡看護福祉専門学校看護学科閉科
令和 3年4月	長岡崇徳福祉専門学校に校名変更（看護科閉科に伴い）

#### (2) 設置している学校

学校名	学部・学科名	修業年限	入学定員	収容定員
長岡崇徳大学	看護学部 看護学科	4年	80名	320名
長岡看護福祉専門学校	介護福祉学科	2年	30名	60名
	看護学科	3年	30名	90名
上越看護専門学校	看護学科	3年	40名	120名

#### (3) 各学校の定員充足率

	長岡崇徳大学			長岡崇徳福祉専門学校			上越看護専門学校		
	定員	学生数	充足率	定員	学生数	充足率	定員	学生数	充足率
令和3年度	80	74	92.5%	30	18	60.0%	40	35	87.5%
令和2年度	80	56	70.0%	30	10	33.3%	40	34	85.0%
令和元年度	80	40	50.0%	30	7	23.3%	40	38	95.0%
計	240	170	70.8%	90	35	38.9%	120	108	89.2%

(4) 役員概要

定員数 理事 8名 監事 2名

令和3年3月31日 現在

(任期：令和2年5月30日から令和4年5月29日)

役員区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事	田宮 崇	非常勤	平成22年4月1日就任
常務理事	森 啓	常勤(学長)	平成28年5月30日就任
常務理事	内山 聖	常勤	令和2年5月30日日就任
理事	卷 瀧 隆 夫	非常勤(学校長)	平成30年5月30日就任
理事	小坂 拓	非常勤	平成29年10月11日就任
理事	田宮 由紀子	非常勤	平成29年7月25日就任
理事	的場 已知子	非常勤	平成30年5月30日就任
理事	廣 川 敢	非常勤	平成23年9月22日就任
監事	河上 恭雄	非常勤	平成30年5月30日就任
監事	五十嵐 芳人	非常勤	令和元年9月1日日就任

(5) 評議員概要

定員数 17名以上 21名以内

令和3年3月31日 現在

(任期：令和2年5月30日から令和4年5月29日)

役員区分	氏名	当法人の役職	摘要
評議員	田宮 崇	理事	平成22年4月1日就任
評議員	森 啓	理事	平成28年5月30日就任
評議員	卷 瀧 隆 夫	理事	平成23年5月23日就任
評議員	田宮 由紀子	理事	平成29年7月25日就任
評議員	廣 川 敢	理事	平成23年9月22日就任
評議員	的場 已知子	理事	平成26年7月1日就任
評議員	小坂 拓	理事	平成29年10月11日就任
評議員	内山 聖	理事	平成29年10月11日就任
評議員	佐 武 明		平成22年4月1日就任
評議員	江口 郁子	学校長	令和元年9月1日日就任
評議員	田中 憲一		平成22年4月1日就任
評議員	京 極 高 宣		平成30年8月20日就任
評議員	井上 恵		平成30年5月30日就任

評議員	中 村 悦 子	看護学部長	平成 30 年 8 月 20 日就任
評議員	横 山 侑 馬	長岡看護福祉専門 学校同窓会会長	平成 27 年 4 月 1 日就任
評議員	齋 藤 智		令和元年 9 月 1 日日就任
評議員	小 見 誠	事務局長	令和 2 年 5 月 30 日就任

(6) 教職員の概要

(単位：人)

	区 分	本 部	長岡崇徳大学	長岡看護福祉 専門学校	上越看護専 門学校	計
教 員	本務	—	2 8	1 0	1 0	4 8
	兼務	—	1 4 7	2 6 6	2 5 4	6 6 7
職 員	本務	4	1 2	5	5	2 6
	兼務	2	1	0	0	3

令和 2 年 3 月 3 1 日 現在

2 悠久崇徳学園 事業の概要

学校法人悠久崇徳学園は社会的ニーズの高く、就職にも強い看護師、介護福祉士の国家資格を取得することができる学園として 1992 年に設立、29 年が経過。

長岡崇徳大学看護学部、長岡看護福祉専門学校、上越看護専門学校の三校一学部三学科の設置運営を行ってきましたが 2021 年 3 月、長岡看護福祉専門学校看護学科を閉科。

1995 年、長岡福祉専門学院に看護学科を併設し、長岡看護福祉専門学校に改名し、実に四半世紀に及ぶ歴史の中で地域の要請もあり 895 名の看護師を養成した。

本学科の特徴は、看護の場であらゆる対象者の理解を深め、個々の人権を尊重した人間関係の中から、豊かな感性をはぐくみ広い視野を持って、看護実践のできる看護専門職業人の育成を教育の基本理念とした。

また、生命の尊厳と人類愛を基盤とした思考、判断、行動ができる能力を養うとともに、保健・医療・福祉のチームの一員として看護の役割を認識し、その責任を果たす能力を身につけた看護師育成を目指した。

思いやりを大切に、豊かな人間性を養い、社会に出て、人々の健康と福祉に直ぐに役立つ人材を養成することを教育の最大の目標とした。

この精神は一昨年、悠久崇徳学園長岡崇徳大学看護学部開設に伴い、地域をつなぐ「看護力」を育むとして永遠に受け継がれることとなった。

この 1 年、コロナ過でいろんな制約にも打ち勝ち、しっかりと成長した学生たち、学園を信頼してくださる保護者の皆様、そして学生たちに看護専門力をつけようと努力する職員に感謝したい。

長岡看護福祉専門学校看護学科の教育実践は、この三者が一体となって押し進めること

ができる学校だからこそ、可能となった。

令和2年度の目標は、運営する3校の入学生確保による財政基盤の強化を掲げ、本部に広報部、国際企画部を新設し、各学校との連携もあり、学園全体で学生確保に尽力した。

その結果、2年目を迎えた長岡崇徳大学看護学部（定員80名）は3学年合わせ、充足率70.8%となった。長岡看護福祉専門学校（介護科 定員30名）は留学生4名の受け入れを開始し、充足率46.6%と回復したが、看護科の廃止もあり今後も厳しい学園運営は続く結果となった。

上越看護専門学校（定員40名）については、県立十日町看護専門学校の影響を受けたが、ほぼ横ばいの89.2%の充足率を確保した。

今後は、学生、保護者はもちろんのこと地域からも魅力ある学園として柔軟な発想と想像力を発揮させ、学園全体で一体感を持った広報活動を展開することが重要となった。

さらに、建学の精神を再認識し、継承すべきミッションを実現していくビジョンを実現する目標・戦略・計画の必要性を認識し悠久崇徳学園「中長期計画」を策定した。

令和2年度は以下に掲げる重点項目を中心に活動を実施。

(1) 法人組織運営体制の強化推進

法人組織運営体制の強化として定例の諮問会議を組織化し、法人喫緊の課題や収支状況等の情報共有化を図り、運営管理を実施。

(2) 内部統制の整備・充実

内部監査規程に基づき監事、公認会計士および内部監査室の連携により、有効かつ効率的な監査の実現と将来に向けた学園収支の提案を実施。

(3) 各種法律及び制度改革対応

国が進める「働き方改革」の流れと学園の実情と問題点を的確に把握し、年次有給休暇取得の時期指定及び学園のコンプライアンス確保のため裁定規程の導入。

人事考課制度については中長期計画に基づき2年計画で実施。

(4) 崇徳厚生事業団との更なる連携実施。(学園設備、環境整備の実施、留学生確保、奨学金制度確立等)

(5) 学園財政基盤確立に向けた将来収支の提案実施。

3 長岡崇徳大学

※資料1-2 記載

4 長岡看護福祉専門学校

※資料1-3 記載

5 上越看護専門学校

※資料1-4 記載

# 令和2年度 事業報告（概要）

校名：長岡崇徳大学

## 1. 事業概要

開学2年目を迎え、下記の目標にむけて活動を行った。

### ○看護学部・看護学科の目標

#### <目標>

1. 学生のキャンパスライフの充実に向け、学生の視点に立ち学修を支援し、生活環境を整えていく。
2. 看護学部の組織基盤構築のために委員会活動を計画的に展開する。
3. 研究活動、地域貢献活動に取り組み、その実績を可視化する。
4. 新カリ導入に向け検討し、申請手続きを完了する。

#### <評価>

- ①学生のキャンパスライフ充実のため、学修支援、生活環境の整備を行った。
- ②委員会活動の充実により、組織基盤の確立に努めた。
- ③コロナ禍の中、感染防止に対応しながら地域貢献活動に取り組んだ。
- ④新カリキュラム導入に向けて、検討を行い申請手続の準備を完了した。

## 2. 事業の具体的実施事項

- ① コロナ禍の対応について、下記の事項を行った。
  - ・ コロナ危機管理レベル表を作成し、それに基づき新型コロナウイルス感染症発生時の対応など連絡体制の整備を行った。
  - ・ 講義室等の消毒の徹底、手洗い等の励行、行動自粛などホームページやポータルサイトでの啓発活動を行った。
  - ・ オンライン授業の環境整備のため、学生に一律3万円の学修支援を行った。加えて1年生全員にPCを配布（貸与）した（オンライン授業実施5月11日～6月19日）。
  - ・ 2月に学外で行われる予定であった基礎看護学実習Ⅱを学内で実施した。
- ② コロナ禍のため、学外活動が十分できなかった委員会もあるが、概ね計画的に活動できた。
- ③ コロナ禍のため、予定していた活動ができなかったが、高大連携（高校生向け1日体験入学）、子育て支援事業（パパママサークル）、出前授業等を感染防止に留意して実施した。

- ④ 新カリ導入検討委員会において、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令」の公布に伴い、本学の教育課程の変更が必要となり、新カリ対応のカリキュラム案を作成した。

### 3. 収支状況

学生の定員未充足、教員人件費・教育研究経費の増加、寄付金の減少等により、前年度に比べ、収支状況が52%悪化した。

### 4. 年度総括

コロナ禍により、計画的な事業活動は困難であったが、コロナへの対応により、学生、教職員のコロナ感染が防止できた。

### 5. 学生数・職員の状況

#### (1) 学生数

	1年	2年	3年	4年	計
学生数	58	40			98

#### (2) 職員の状況

職員数	計 41 名				
学長	1名	講師	2名	派遣事務職員	1名
学部長	1名	助教	7名		
教授	12名	助手	2名		
准教授	2名	事務職員	13名		

# 令和2年度 事業報告（概要）

校名：長岡看護福祉専門学校

## 1 事業概要

平成7年に看護学科を開科し、26年間看護師養成を続け、今年度卒業生を含め895名の看護師を社会に輩出し、看護教育の役割を大学に委ね同学科を閉科した。

平成31年度より介護福祉学科のみの募集となり、在学生の減少により運営が厳しくなる中にも、より介護に特化した介護福祉士養成及び留学生受け入れによる国際理解・国際貢献教育を開始した。

校内の施設設備で使用できなかった入浴実習室を改修し、及びカビにより使用できなかった学生ラウンジに防カビ塗装を施し施設の充実を図った。

中長期目標を立て、学生募集を強化し定員充足率を上げ、喫緊の課題である経常収支差額の黒字化を目指すとともに、安定的で持続可能な財政基盤と教育研究活動基盤を早急に構築するため、校内施設設備を研修会場として活用し運用効率の向上に努めた。また教員を高等学校の講師として派遣し、高校生及び高等学校との良好な関係を継続し学生募集に繋げるなど、教育資産を活用した。

社会人向け募集も再考、離職者受け入れのため公共職業訓練委託事業を再開し、入学の入り口を広げた。

コロナ禍にあって学生募集活動が制限される中、オンライン学校説明会や面接試験を行うなど可能な限りの方策を行った。

制度面では競合校より1年遅れではあったが、修学支援新制度の確認校として認可を受け対抗することができた。

## 2 事業の具体的実施事項

### （1）学生募集に向けての対策強化

- ①新校名変更に向けての周知徹底を行った。
- ②学園広報部との連携による高校訪問回数の増加と工夫を行い、介護職のキャリアプランの提示による福祉分野への興味関心の喚起を促す広報活動を行った。
- ③推薦入学枠の増加、入学歴のある日本語学校との連携強化を行った。
- ④参加者ニーズ別オープンキャンパスの実施。
- ⑤「崇徳厚生事業団奨学金」+「働きながら学ぶ制度」の利用による他校にない奨学金の差別化の周知徹底を行った。
- ⑥離職者向け公共職業訓練委託事業の認可申請を行った。



- ⑦社会人募集のため支援団体、ハローワーク等への協力依頼を行った。
- ⑧オンライン学校説明会及びオンライン面接試験の実施。

## (2) 教育活動の充実

- ①留学生の日本語能力に配慮した、講義・教材の工夫を行った。
- ②国家試験対策の強化を実施した。
- ③中途退学者の予防対策を講じた。
- ④学生の個別の課題に応じた学生支援を行った。
- ⑤留学生の受け入れに伴い学習支援、生活支援のため教務・事務一体となった連携を行った。

## (3) 資産活用

- ①やろーぜプラン（介護福祉士等キャリアアップ研修）、介護福祉士初任者研修への備品の貸し出し等運用効率を上げた。
- ②教員を高等学校の初任者研修の講師として派遣した。

## (4) 施設設備

- ①入浴実習室の配管、給湯器を改修し学内演習を可能とした。
- ②カビが繁殖していた学生ラウンジに殺菌、防カビ塗装を施し使用できるようにした。
- ③湿度の高い家政学実習室及び学生ラウンジにハイパワーの除湿器を設置した。
- ④故障して修理不能な1階図書館・講師室・更衣室の空調機を入れ替えた。
- ⑤看護学科閉科に伴い、大学が必要としている備品は大学へ移管し、不要な備品は廃棄した。
- ⑥東口から入館する大学生のため、土足対応できるようにカーペットを敷いた。

## (5) 新型コロナウイルス対策

- ①学内に感染防止ガイドラインを作成し、学生・保護者及び教職員に周知徹底を図り適宜必要な措置を行った。
- ②東口玄関にサーモグラフィーカメラを設置した。
- ③手指消毒用アルコールを各部屋入り口に設置した。
- ④施設で実施できない実習は学内で行った。

## (6) その他

- ①看護学科閉科にあたり、不備なく実施することができた。
- ②留学生に長岡市国際交流課及びボランティア連合会より商品券・食品の支援が行われた。

### 3 収支状況

入学生は増えたものの、必要な教職員の配置、学生の定員未充、在学生の1学年分の減少により収支は悪化した。

### 4. 年度総括

教育機関としての教育活動の充実については概ね成果はみられるが、経営基盤の中心となる学生確保・定員充足については目標から遠く離れており、教職員一丸となって目標達成に取り組むことが看護学科閉科後の課題である。

今後の計画として、令和3年度事業計画及び中長期計画に基づき実行していくことが肝要である。

### 5. 学生数・職員の状況

#### (1) 学生数

学生数	1年	2年	3年	計
介護福祉学科	10	7		17
看護学科	0	0	36	36
合計	10	7	36	53

#### (2) 職員の状況

職員数 合計18名			
学校長	1名	事務職員	4名
副学校長	1名		
主任	2名		
教員	10名		

# 令和2年度 事業報告（概要）

上越看護専門学校

## 1 事業概要

本校の教育理念である「人間として豊かな感性を培い、生命を尊重し、自立した行動がとれる看護師の育成」を目指し、経営基盤の強化、教育活動の充実、組織の活性化を取り組み課題として事業を行った。

## 2 事業の具体的実施事項

### (1) 学生の定員確保

令和2年度は少子化と相まってコロナ禍という厳しい社会状況であったが、学内の雰囲気や教員との信頼関係は高い評価を得ており、この魅力を発信しながら募集活動を行った。

- ・ 2019年秋から資料請求のあった高校生にスクールガイドと募集要項を発送
- ・ 入学者のメッセージカードと推薦選抜の案内を持って学校訪問を実施
- ・ 募集要項と学生の近況報告（写真付き）を持って学校訪問を実施
- ・ オープンキャンパスPRポスターを直江津駅、高田駅、新井駅に掲示
- ・ 県内外の高校46校にオープンキャンパスポスターを発送
- ・ 公募制特別推薦枠を新設（学習成績3.0以上で学校長が推薦する者）
- ・ フリーペーパー（72000部）や上越タイムス・新潟日報への広告掲載
- ・ 社会人限定の学校説明会を実施

### (2) 教育施設の整備

築43年が経過しているため、施設設備の劣化状況を確認しながら整備した。

- ① 昨年実施したFFガスファンヒーター設置工事の第2期工事として事務室、教員室、会議室、講師室、実習室に各1台設置
- ② 雨漏りで塗装の剥離が著しい外壁61㎡について補修工事を実施
- ③ 水はけの悪い駐車場3ヶ所48.4㎡について舗装の補修工事を実施
- ④ 故障した講堂パッケージエアコンのコンプレッサーを交換修理

### (3) 教育備品の整備

- ① 上腕部筋肉内・皮下注射シュミレーター“きんちゅうくんⅡ”1式
- ② 小児実習モデル“マロンちゃん”1式

### (4) 教育活動の充実

#### ① 教員の実践能力の向上

教員が各自のキャリア目標と学生支援目標を「目標シート」に記載し、自己評価と教務主任による面接を実施した。

#### ② 学生の社会人基礎力の育成

学生が「社会人基礎力チェックシート」を作成し、自己評価と教員による面接を実施した。

#### ③ 国家試験対策

模擬試験やオンライン講座を利用しながら全員合格を目指したが、結果は1名不合格で合格率97.4%であった。

## (5) 組織の活性化

### ① 職員の人材確保・育成

教務主任養成講習会や大学院の受講支援のため、授業表や実習配置等の調整を行った。さらに、専任教員資格取得のための大学受講についても、未資格者は全員受講できるよう支援した。

### ② 職員のモチベーションの維持・向上

- ・ 研修会や講習会には積極的に参加することとしているが、新型コロナウイルス感染症のためオンラインでの参加となった。
- ・ 教員会議を毎月実施し、学生の学習状況を教員全員で共有するとともに、指導困難な学生には指導方針の統一を図った。

## 3 収支状況

納付金収入については前年比△6,214千円、雑収入については△5,675千円となり、教育活動収入合計で△11,837千円の124,550千円となった。これは、生徒数の減による納付金収入の減と、退職者減で社団交付金が減ったためである。

教育活動支出では、人件費で退職者減分の△7,548千円となったが、教育研究費では、感染症による実習関連経費で3,000千円ほど減ったものの、奨学費支出4,404千円（授業料等減免）が大きく前年比2,023千円の支出増となった。また、管理経費では、外壁塗装等の修繕費のほか、豪雪による除排雪経費が大きく影響し、前年比2,084千円の支出増となった。

その結果、教育活動支出合計で113,814千円となり、収支差額は前年比△8,315千円のプラス10,736千円となっている。

## 4 年度総括

令和2年度の入試結果は、定員40名に対し出願者54名、受験者48名、合格者46名、うち入学者34名であった。一般入試では県立看護大学との併願が最も多く、新潟病院や十日町など看護系のほか、北里、富山大、長岡造形大などとの併願も見られた。また、社会人入試では4名の受験にとどまっており、コロナ禍の影響は少なからずあったものと思われる。

定員を確保するには、通学困難な県内や近県の学校にまで範囲を広げなければならないが、家賃補助がない状態での募集は効果が期待できない。家賃補助等の経済的支援制度を早急に整備していく必要がある。

## 5 学生数・職員の状況

### (1) 学生数

	1年生	2年生	3年生	計	定員充足率
R2.4.1 在籍者	36	38	38	112	93.33%
R3.4.1 在籍者	35	34	36	105	87.50%

### (2) 職員の状況

	校長	副校長	教員	実習教員	顧問	事務	用務	計
R2.4.1	1	1	8	7	1	4	1	23
R3.4.1	1	1	9	6	1	4	1	23